

「豊島区立図書館基本計画（第二次）」骨子案に対する
豊島区図書館経営協議会（第1回）の委員意見概要

1 「にぎやかな公共図書館」のコンセプトについて

- ・最初にこの言葉を見た時に、おもしろい言葉だと思った。にぎやかなコミュニティの創造につながる。ポジティブな言葉で良い。
- ・全ての人に「にぎやかな公共図書館」を納得していただくことは難しい。豊島区立図書館が「にぎやかな公共図書館」をぶれずに説明できるコンセプトが必要である。反対意見に対しては納得していただくまで説明する必要がある。
- ・中高生に、来てもらう図書館を考えると、話ができる環境が必須である。少人数で話ができることが一番喜ばれるため、そのような場所を確保し、集まった際に集団でも個人でも調べができると言った図書館が良い。
- ・館内に限らず、公園等を学びの場に変える等あらゆるところで本に触れられる環境をつくるのも良い。
- ・豊島区立図書館は7館あり、作りも雰囲気も違う。中央図書館は社会人（ビジネス）の方が多く利用しているイメージがある。ビルの4階・5階にあるため、子どもがワクワクしながら家から図書館に入ると言った雰囲気とは少し違う。一方地域館は、地域に密着し、子どもが家の玄関をあけ、図書館にワクワクしながら入っていくイメージがある。各館の特色があると思うので、全ての意見に全館で対応するのは難しいので、各館の特色を活かしていけばよいと思う。
- ・ボランティアも現在人手不足である。図書館運営もよくばるのではなく、出来るものを具体的にしっかりと見極めて取り組んでいく必要がある
- ・「にぎやかな公共図書館」のコンセプトに賛成である。静かにするフロアとそうでないところの場所を分けて提供するのはどうか？アメリカの図書館でも少人数で研究できる場所、人が集まれる場所、静かに利用できる場所のゾーニングができています。
- ・小さめな図書館ではスペース的に難しいこともある。また、「にぎやかな」のキーワードは、豊島区立図書館が目指すコンセプトを「うるさい」等に多くの方は誤解をすると思う。「にぎやかな」の具体的なコンセプトを分かりやすく伝えていく工夫をしていく必要がある。

- ・計画の中の「多くの人に利用される」とカッコ書きされている部分が本来の目指す主旨と違う感じを受ける。「豊かさ」に視点が行くようなニュアンスにつながると良い。コンセプトを読むと「にぎわい」のイメージにつながる。
- ・豊島区は南池袋公園ができたことによって、街のイメージが大きく変わった。公園でも本が読める仕組み等、場所を図書館内だけではなく、ワクワクする雰囲気が必要で、カフェや公園があると思う。
- ・UR（都市再生機構）の洋光台中央団地では、バスケット（かご）の中に、本と毛布をいれて貸し出す取組をしている。南池袋公園等でも図書館の意義等を発信していく取組を実施していく必要がある。
- ・最初にぎやかな公共図書館と聞いた時には、できるのかと疑問に思った。図書館を集客機能、図書館の存在を自治体の活性化に使うのは抵抗感を感じた。今日の意見を聞くとニーズを反映しているのだと感じた。
- ・（多くの人に利用される）というカッコ書きは不要。「にぎやかな」がキャッチーなので、それはどういうこと？と思う人が多いと思う。そういった方に向けて誤解がないように（多くの人に利用される）と記載があるのだと思うが、そういった方向けに「にぎやかな」というコンセプトを分かりやすく説明したものが別途あれば、それでことが足りるのと、変な誤解を招かないものと思う。
- ・近年、空洞化する駅前再生などで、その重要な機能として、全国的に図書館が注目されている。県庁所在地だけではなく、小布施町（長野県）、紫波町（岩手県）、東川町（北海道）といった人口が相対的に少ない町でも、ソフト&ハードがよくデザインされた図書館が、ファミリー層の移住増加をうながし、地域活性の柱になっている。
- ・ただ静かに図書を読むだけの場所ではなく、外部の人との MTG スペース、地域活動用のスペース、地域マーケット、地域の食材を使ったカフェ・レストランが併設され、知的な好奇心を軸にした交流の場となっている。
- ・それらのいちばんの効用は、住民の方々に自分が住む場所への「誇り」「愛着」を根付かせるところだと思う。
- ・学問的な追究の場として、また思索的な場として、静かな図書館も必要だが、それらはきちんと保持した上で、図書館をどんどん外に開いていけばいいと思う。また、伝統的な図書館の雰囲気は、大学など教育機関の図書館が担って、また、それを必要とする人を受け入れていけばいいのではないかな。
- ・ただ無目的に集う場を提供するだけでは、本来の図書館の機能を求めて集まる住民の方を失望させてしまうこともあると思うので、きちんとしたビジョンを持って進

めること、そのかわり一度決めたらある程度の期間はぶれないことが肝要かと思う。会議でも述べたように、子ども向けに図書を用いた調べ学習ができるスペースや、読書活動をベースにしたディスカッション、発表などができるブースがあるのが理想的だと思う。

もちろん、子どもが集えば時にはしゃいでしまうこともあるかもしれないが、目的として「図書を用いた活動をしている」という前提を崩さずにおいて、多少の私語は寛容に受け止める度量も必要だと思う。

先日、武蔵野プレイスに行って滞在してみたが、私自身はほとんど音が気にならなかった。

2 重点取組「DX化」について

- ・DXはブームとなっているが、コストがかかる。図書館で考えられるものとしては、スマホでワンストップ利用、電子書籍等がある。電子化することで、図書館に足を運ばなくなるというマイナス面もある。DX化の定義がまだ明確になっていない中、慎重に進め、区としてできるサービスを絞る必要がある。図書館のみではなく、豊島区全体の部署との調整が必要である。

3 重点取組「図書館とSDGs」について

- ・国連広報センターの方も話していただくが、SDGsについては、図書館が中心になって工夫することで当事者意識を市民がもってくれるようになる。「SDGs未来都市」の豊島区としてぜひ図書館での取組みを進めて欲しい。

4 成果指標等について

- ・数値目標、成果指標について、図書館の取組は数字には表れないものも多い。質的指標を反映できるような仕組みが必要である。数字が出ないからといって、予算が削られてしまうという仕組みを改善していく必要がある。

5 障害者対応について

- ・図書館に限らず、説明会等事業の申込が電話のみの受付になっていたりすることが多い。一つの方法だけだと、誰かに依頼しないと申込ができない人がいる。応募方法等にも工夫をし、あらゆるものに対し、誰もが利用できるようにしてほしい。

6 図書館の発信について

- ・図書館の情報を発信することが大切である。情報弱者は偶然にでも出会わないものはずっと知らないままである。出会えない人にどう発信していくか工夫が必要である。偶然にある「場」の活用をしていく必要がある。

7 計画を進めるための具体的な提案

- ・館内だけでなく、外に飛び出していく必要がある。公園や、IKEBUSの活用。移動図書館のような図書館と地域の公園やお店等とつながっていく地区を広くつくりあげると良い。

- 仕事で、南池袋公園で、クライアントとの打ち合わせをすることがある。従来は会社等屋内でやっていたことが、南池袋公園ができたことによって、屋外の豊島区の魅力的な場所で実施するようになった。公園の活用を積極的に取り入れていくと良い。
- 人に勧められるという行為、口コミには多くの可能性がある。自身も人に勧められた本は読みたいと思う。「本」を通して人と人がつながっていくとより広く図書館の意義を周知できると思う。
- 365日あらゆる「〇〇の日」をつくるといい。例えば、「子ども DAY」とか。少しずつやっていけば、図書資料も積み重なっていくし、あらゆる世代に図書館の意義を発信できると思う。「国際手話デイ」というものもあり、そういった国際的に決まっている日に図書館でその資料を展示する等取組をすることも良い。365日実施することで、豊島区の財産が日に日に増えていくことになる。
- IKEBUSの活用もするとよい。
- 事業だけでなく、日常で館内の司書とのコミュニケーションをする時間があるとよい。司書がハブとなって、活性化する取組をすすめていけたらよい。気軽に、司書に聞いてくださいなどの張り紙を掲出する等工夫する。児童・生徒・教員から日々相談される学校司書の役割を図書館司書にも。
- 学習院大学には地域の外国人に学生が日本のことを教えるといった取組があったが実際に外国人と出会えないといった課題が多かった。マッチングも重要な要素である。東京外国語大学では、留学生が多いため、「ロシアンデイ」「ターキーデイ」等を設けて、コミュニティをつくり、多くのマッチングの場を設けている。図書館でも、各国のお話しをその国の人に紹介してもらうなどの事業をするのも良い。
- 春や秋の晴れの日、南池袋公園やイケサンパークに移動図書館（トラック？）が来て、芝生の上で好きな本が読めたら素敵だな、と思う。移動図書館に積む本は、計画内の「にぎやかな公共図書館①～④」の目指す姿に関連したものを選ぶとよいと思う。
- 「地域社会の知の基盤のネットワークハブとなる図書館」について、個人的にはビジネスマンなどの社会人がもっと図書館を活用していいと思う。例えば仕事への図書館活用を促進させるリーフレットなどを作成し、リモートワーク用のスペースやカフェなど、彼らが仕事をする上で触れる場などにそういったリーフレット等を提案してみてもいいかもしれない。

- ・私は公共の図書館経由で、デジタルの資料にアクセスできればうれしいと考えている。ネットに情報はあふれているが、きちんと取材して、複数の人がファクトチェックをして、書き手の責任が明記されたメディアの記事は、サブスクによる有料化が進んでいる。それらすべてを契約することはできないので、図書館経由でつながれるとなれば、本当にありがたい。大宅文庫（※）のように、記事 1 本につきコピー代を支払う、ということでも使いたいと思う。新聞社、出版社なども、公共との契約形態開発に着手して、マスメディア冬の時代に、ウィン・ウインの関係を作っていけばいいのに……と歯がゆく思っている。

※大宅壮一文庫：公益財団法人大宅壮一文庫は、日本で初めての雑誌図書館。評論家大宅壮一の雑誌コレクションを引き継いで明治時代以降 130 年余りの雑誌を所蔵している。雑誌記事牽引データベースを作成しており、主な所蔵刺しの記事を検索することができ、閲覧や複写もできる。（大宅壮一文庫 WEB より）

- ・晴天の時はグリーン（芝生）でなく西口にある広場で貸し出し図書館を年何回実施してみるのもいいかもしれない。それから図書館にない書籍は 7 つにある図書館へ紹介して頂く。その場で貸し出しだけでなく読み聞かせる場も設ける。
- ・ワイワイするのでなく楽しい図書館にするには地域の区民ひろばのネットワークを活用して繋がりを強くしていく。区民ひろばは独自の企画を持っており、その区民ひろばに何かの教室があればわざわざ通う方もいる。7 つの図書館に特色をもたせて魅力ある企画を作って盛り上げられるのではと思います。まずは豊島区の高齢者の会があるので意見交換したらどうか？
- ・年間に豊島区が求められている SDG s に沿って幾つかのテーマで週間を通して巡回していく。人権週間とか差別解消週間とか区民の声を聞いてテーマを選んでそのコーナーを作って頂く。
- ・区内にある小学校、中学校、高等学校、町会、各種協会にある新聞を、コーナーを設けて誰でも見て頂く機会を与え、普段見られない組織が知る機会になるのではないかと思う。
- ・図書館は地域の自治体（町会）と連携して年寄りでも楽しい読み聞かせを設けて朗読会を設ければ読む人口も増えるのでは？過去に実施したことがあるかは知りませんが、町会の方の反応を聞きたい。
- ・発信していく図書館
本の特集コーナーや展示で今のトレンドやこれからの動向を感じることができ、とても良いと思う。展示だけではなく特集に関するイベント（情報交換会、意見交換会など）といった動的要素も面白そう。
 - ①地域の歴史の紹介の展示
 - ②SDG s など先進的な取り組みの紹介の展示
 - ③動的なコンテンツ（①、②などに関連するイベントなど）

④動的なコンテンツ（地域の歴史を調べるサークルの活動場所として提供、図書館主催のイベントの企画と運営、オープンミーティングの開催場所としての利用の促進など）

- ・豊島区は外国人・外国にルーツを持つ子どもも多いということで、そういった方と繋がる場として図書館が機能できれば、という思いもある。私の同僚が御茶ノ水女子でバイリンガル教育の博士論文を書いているのですが、小学生に対する「取り出し授業」的なものの必要性は比較的意識されやすい一方、ある程度生活・学習ができてしまう中学生、高校生の学力不安については非常に遅れている、ということだった。結局、日本人に比べて思うような学校に進学できずに社会的に取り残されてしまう子どもたちが、今後大きな社会問題になるだろうという話だった。なかなか難しい問題だと思いますが、国語力が他の教科の足をひっぱっている可能性が高いので、司書の方に、日本人の中高生にアドバイスするのは違うニーズで、彼らにとって読みやすい本を選書する、「多読」できるような環境を作るなど、図書館がサポートできることはないだろうか、と考える。